

## 笠小の「感染症拡大防止対策」まとめ

日頃より感染症対策に関しまして、保

護者の皆様のご理解ご協力が心より感謝申し上げます。

さて、群馬県が「社会経済活動再開に向けたガイドライン」における警戒度を「2」から「1」に移行したことにより、みどり市の小中学校では6月22日（月）より通常登校となりました。

笠小では文部科学省「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン」、みどり市版「新型コロナウイルス感染症対策」に沿って、日々の活動を行っています。

ご心配をいただいている方が多いと思いますので、学校での感染症対策についてお知らせします。



- (1) 検温・カードチェック 検温は、玄関前にテントを張り、強い日差しや雨を避けながら非接触型体温計で行っています。体温が 37.0℃以上であったり、風邪症状があったりする場合は登校を控えていただくことになっていますが、玄関で熱や風邪症状を確認した場合は、ご家庭に電話連絡をさせていただき、お迎えをお願いしています。なお、平熱が高い、アレルギーやぜんそくの症状がある場合には、その旨検温カードに記載してください。なお、明日（7/2）からは、玄関での検温は行わないことになりましたので、ご家庭での検温、健康観察は、ぜひともよろしくお願いたします。



群馬テレビのニュース映像より

- (2) マスクの着用 マスクの着用率は高く、忘れる子はほぼいない状況です。校舎内ではしっかりと着用するように指導していますが、屋外の授業や登下校時には、熱中症にならないよう苦しいと感じたらマスクをはずすようにという指導もしています。今後は暑くなりますので、熱中症にも要注意です。
- (3) ソーシャルディスタンス マスク着用時は最低1mの距離、屋外でマスクをしない場合でも最低2mの距離を開けるように指導しています。教室では縦横一杯に広がって座り、「マスクをして1m」を維持しています。英語では、ALTが発音時の口の形がよく見えるようにと飛沫防止のフェイスシールドを着用しています。しかし、トイレや流しなどでは、ソーシャルディスタンスの表示があるものの無意識のうちに距離が近くなってしまうことがあり、休み時間などの過ごし方などが課題です。



- (4) 手指消毒 登校時には必ず玄関で消毒してから、校舎内に入ります。登校後は、手洗いを基本としながらも玄関や教室に消毒液を置き、いつでも使用できるようにしています。また、笠小では大量の消毒液が必要となりますので、無くならないように適宜みどり市からもらっています。



群馬テレビのニュース映像より

- (5) 給食時の対応 授業後は手洗いを徹底するとともに、担任が配

膳台や子どもたちの机に消毒液をスプレーしてから配膳しています。また、栄養教諭が献立を工夫して、配膳の手間が省けるよう、サラダなどの副菜を一品少なくして、その分の野菜は汁物に入れるようにしています。



(6) 掃除時の対応 教員が担当する各清掃箇所を巡回して消毒液をスプレーし、除菌してから清掃するようにしています。特に、菌が多く潜んでいるトイレは、慎重に行っています。まず、担任によるスプレー後、子どもたちはマスクと使い捨ての手袋をして直接手が触れないようにしています。床の清掃は柄の長いワイパーにウエットシートを装着してふき、便器もウエットシートでふき取っています。便が付いているところは、子どもたちではなく、教員がふき取ることになっています。清掃後は、ウエットシート、手袋をゴミ袋に捨て、手指消毒をしています。トイレの数が少ない学校などでは、一時期教員が行っていた学校もありましたが、笠小では最大限の安全性を確保した上で持続可能な活動として行っています。なお、心配な場合はお子さんに掃除を行わせないことも可能ですので、まずは担任へご相談ください。

トイレの数が少ない学校などでは、一時期教員が行っていた学校もありましたが、笠小では最大限の安全性を確保した上で持続可能な活動として行っています。なお、心配な場合はお子さんに掃除を行わせないことも可能ですので、まずは担任へご相談ください。



## 修学旅行と林間学校に関する情報

たいへんご心配をいただいている6年生の修学旅行と5年生の林間学校については、おおむね市内の小学校が同じ歩調で「実施する方向」で調整しています。しかしながら、先日高崎市で高校生の感染が報道されたように、感染症に関してはいつ、どのような状況になるかはだれにも予想ができませんので、あくまでも「現在の状況では…」ということで、ご了解ください。

まず、6年生は、予定されていた期日で東京・鎌倉方面の予約を確保しておきながらも、感染者の多い首都圏を避けた他方面の旅行を検討しています。修学旅行という性質から学習効果を考えると、栃木県～福島県方面や長野県が候補に挙げられます。しかし、もともと首都圏の小学校の宿泊先である日光・鬼怒川方面、会津・猪苗代方面では、笠小のような大規模校を受け入れ可能なホテルの確保は難しい状況です。従いまして、方面を変更する場合は長野県が有力です。見学場所は、善光寺や松本城、白樺湖などになります。予約の期限は、7月末となっていますので、それまでには結論を出し、説明会を開催したいと思います。

5年生の林間学校については、東毛青少年自然の家から「宿泊は1室10名以下」という規準が示されたため、150名の笠小は、12室しかない東毛青少年自然の家には宿泊できなくなりました。県内の他施設は、規模が小さいことや他地域の学校の予約状況から場所を移しての宿泊は難しい状況です。東毛は日帰りの利用は受け入れているため、日帰りの野外活動になる可能性が大きい状況です。

学校としましては、子どもたちが楽しみにしている行事は、可能な限り実施したいという気持ちに変わりありません。今後も最善策を模索して参りますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

学校としましては、子どもたちが楽しみにしている行事は、可能な限り実施したいという気持ちに変わりありません。今後も最善策を模索して参りますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

## 群馬テレビの取材を受けました

5月27日に群馬テレビの取材を受け、「6月から学校再開 大規模校は感染予防に苦心」の見出しで、当日6時と8時のニュースで放映されました。

朝の検温、カードチェック、手指消毒の様子からはじまり、赤石先生の学級活動の様子、6年生のインタビュー、校長のインタビューへと続きました。笠小のような大規模校でもしっかり感染症対策を行っていることや学校が再開してうれしそうにしている子どもたちの気持ちがよく伝わっていたように思います。

朝の検温、カードチェック、手指消毒の様子からはじまり、赤石先生の学級活動の様子、6年生のインタビュー、校長のインタビューへと続きました。笠小のような大規模校でもしっかり感染症対策を行っていることや学校が再開してうれしそうにしている子どもたちの気持ちがよく伝わっていたように思います。



なお、このニュース映像は、今もYouTubeで観ることができます。

